

## テーマ1 安全安心な食品の確保

## 施策4 調査研究の推進

## (1) 農林水産物に関する調査研究

営農支援課・畜産課・水産課

数値目標項目	数値目標等			平成21年度実施状況	平成22年度実施状況	平成23年度実施状況	評価	
	目標値	H21実績	H22実績					H23実績
化学合成農薬低減技術の開発	1件	0件	0件	0件	・アザミウマ類やコナジラミ類の天敵であるカメムシ類についての研究を実施しており、一部品目に関しては圃場試験を実施しています。 ・現場での使用については、農薬登録をする必要があるため、平成22年度も引き続き研究を継続し、天敵農薬登録に向けたデータ収集を行い、目標年度までに農薬登録できるよう努めていきます。	アザミウマ類やコナジラミ類の天敵であるカメムシ類及びハダニ類の天敵であるカブリダニ類についての研究を行っています。一部品目については、農薬登録に必要な圃場での効果試験を実施しています。	アザミウマ類やコナジラミ類の天敵であるカメムシ類及びハダニ類の天敵であるカブリダニ類についての研究を行っています。平成21年度以降、有望な天敵については農薬登録に必要な圃場での効果試験を実施しています。	農薬使用量低減のための技術開発及び普及啓発について、おおむね計画通り実施できました。天敵農薬登録に向けた取り組みについては、圃場試験を実施したものの、平成23年度中に農薬登録には至りませんでした。
環境保全型農業実証展示ほの設置	5カ所	5カ所	7ヶ所	6ヶ所	・各地区の農業改良普及センター及び農業改良普及課を中心に展示圃を設置しました。 ・平成22年度も引き続き各地区毎に設置し、環境保全型農業の技術の普及に努めます。	県内5地区に農業改良普及センター及び農業改良普及課を中心に、展示ほを設置し、技術の普及を図りました。(北部、中部、宮古、八重山各1地区、南部3地区)	県内5地区に農業改良普及センター及び農業改良普及課を中心に、展示ほを設置し、技術の普及を図りました。(北部、中部、南部、宮古、八重山各1地区、農業大学校)	
病害虫の総合防除技術の開発	2件	1件	1件	2件	・カンキツ類の黒点病に関する総合防除技術の開発を行いました。その結果、黒点病に対する農薬散布回数が大きく減少し、黒点病の発生割合も、従来よりも5割減少しました。 ・平成22年度も引き続き技術の開発を行います。	さとうきび害虫のケブカアカチャコガネの性フェロモン活性成分を解明しました。 沖縄県版のさとうきび病害虫総合防除技術実践指標を作成しました。	沖縄県版のカンキツ総合的病害虫管理技術実践指標の作成に向け、様々な試験研究を行いました。	
農薬登録拡大のための試験データの集積	134件	132件	135件	138件	・平成21年度は、カンショ(茎葉部)、マンゴー(2薬剤)、アテモヤ、トウガンに関する試験を行いました。 ・平成22年度も引き続き、現場の要望を把握しながら、試験データの集積を行います。	マンゴー、トウガン、パインアップル等の農薬登録適用拡大に向け、試験を実施しました。(8薬剤)	エンサイ、葉にんにく、パッションフルーツの農薬登録適用拡大に向け、試験を実施しました。(6薬剤)	

数値目標項目	数値目標等				平成21年度実施状況	平成22年度実施状況	平成23年度実施状況	評価
	目標値	H21実績	H22実績	H23実績				
疾病原因の究明を行った検査頭羽数(畜産課)	7,500頭	7,386	7,500	7,781	・生産農場で発生した家畜疾病の鑑定を行うと共に、家畜疾病の清浄性を確認するため、サルモネラ菌等のモニタリング検査や、疾病の蔓延がないかを確認する浸潤状況調査等を実施し、当該疾病の清浄性確認を行いました。	生産農場で発生した家畜疾病の鑑定を行うと共に、家畜疾病の清浄性を確認するため、サルモネラ菌等のモニタリング検査や、疾病の蔓延がないかを確認する浸潤状況調査等を実施し、当該疾病の清浄性確認を行いました。	前年度同様、生産農場で発生した家畜疾病の鑑定を行うと共に、家畜疾病の清浄性を確認するため、サルモネラ菌等のモニタリング検査や、疾病の蔓延がないかを確認する浸潤状況調査等を実施し、当該疾病の清浄性確認を行いました。	概ね目標を達成しています。
水産用医薬品の使用実態調査の実施(水産課)	1回	1回	1回	1回	・魚病のまん延を防止し、適切な養殖衛生管理体制を整備するため、平成21年度は、水産用医薬品使用実態調査を行いました。 ・平成22年度も養殖業者に対して同調査を行います。	魚病のまん延を防止し、適切な養殖衛生管理体制を整備するため、平成22年度は、水産用医薬品使用実態調査を行いました。	魚病のまん延を防止し、適切な養殖衛生管理体制を整備するため、平成23年度は、水産用医薬品使用実態調査を行いました。	概ね計画通り達成しています。

## (2) 食品衛生検査に係る調査研究

衛生環境研究所

数値目標項目	数値目標等			平成21年度実施状況	平成22年度実施状況	平成23年度実施状況	評価	
	目標値	H21実績	H22実績					H23実績
農産物の残留農薬の検査件数	30件	30件	25件	24件	<p>・平成21年度は予定どおり、6種類の県産農産物(ナス、ニガウリ、マンゴー、チンゲンサイ、トマト、タンカン)について、各5検体ずつ合計30件の残留農薬検査を実施した。各農産物につき、検査した農薬の項目数は193～225項目。</p> <p>・平成22年度も30件の検体について、220項目前後の農薬検査を実施する予定です。</p>	<p>平成22年度は5種類の県産農産物(ゴーヤー、トウガン、マンゴー、シークワサー、チンゲンサイ)について、各5検体ずつ合計25件の残留農薬検査を実施しました。各農産物につき、検査した農薬の項目数は各々240～249項目であり、そのうち3件(マンゴー1件、チンゲンサイ2件)の違反がありました。</p>	<p>4種類の県産農産物(ゴーヤー、マンゴー、カラシ菜、インゲン)について、各6検体ずつ合計24件の残留農薬検査を実施しました。各農産物につき、検査した農薬の項目数は各々228～237項目であり、そのうち3件(カラシ菜2件、インゲン1件)の違反がありました。</p> <p>また、4種類全ての農産物の検査においては、試験法の妥当性評価を実施しました。</p>	<p>毎年度、基準値を超える農薬が検出されており、農薬の適正使用についてより一層の指導が必要です。</p>
近海魚介類の毒性の簡便な検査法の開発	1件	0件	2件	1件	<p>・県内で散発している魚毒シガトキシン類による食中毒の検査を簡便に実施するため、平成20年度末に導入した機器(LC/MS/MS)を用いた分析法を検討中です。</p> <p>・平成21年度はシガトキシン類5種類の同時分析が行えるLC/MS/MSの分析条件について検討しました。</p> <p>・平成22年度は魚肉試料を用い、固相抽出など前処理方法(クリーンアップ)の検討を行います。</p>	<p>海洋性自然毒(シガトキシン類、フグ毒)による食中毒の検査を簡便に実施するため、LC/MS/MSを用いた分析条件設定を検討しました。</p> <p>シガトキシン類16種を同時分析できる分析条件を設定しました。</p> <p>テトロドトキシン標準品を用いて、テトロドトキシンの分析条件を設定しました。</p>	<p>魚介類自然毒であるシガトキシン類は数十種類ありますが、このうち1種類しか市販されておりません。このため、機器分析に必要な標準毒として県産魚類等からシガトキシン類を抽出物として収集しました。</p>	<p>魚介類自然毒であるシガトキシン類、テトロドトキシンのLC/MS/MS分析条件を検討したことにより、分析時間の短縮でき、目標を達成できました。</p>
下痢性貝毒の実態調査	10件	0件	0件	0件	<p>平成20年度に検体(サザエ)を多数確保できたため、20年度で113件の検査を実施したところ、貝毒でないことが判明したため、実態調査を終了しました。</p>	<p>平成21年度の調査で貝毒でないことが判明したため、実態調査を終了しました。</p>	<p>平成21年度の調査で貝毒でないことが判明したため、実態調査を終了しました。</p>	

(3) 食品衛生検査施設における検査等の業務管理の徹底

各保健所・衛生環境研究所

数値目標項目	数値目標等				平成21年度実施状況	平成22年度実施状況	平成23年度実施状況	評価
	目標値	H21実績	H22実績	H23実績				
内部点検の実施設数(各保健所)	9施設	9施設	9施設	9施設	検査対象品の取扱い状況、検査方法・検査結果、各検査機器の日常の点検記録等の文書の確認や、試験室の管理状況等12項目の点検を受けました。	検査対象品の取扱い状況、検査方法・検査結果、各検査機器の日常の点検記録等の文書の確認や、試験室の管理状況等12項目の点検を受けました。	検査対象品の取扱い状況、検査方法・検査結果、各検査機器の日常の点検記録等の文書の確認や、試験室の管理状況等12項目の点検を受けました。	概ね計画通り実施することができましたが、理化学の精度管理については、保健所の検査実態に合わせた実施方法について検討が必要です。
精度管理(微生物・理化学)の実施回数(各保健所)	各2回	各2回	各1回	2回(微生物)1回(理化学)	食中毒菌等の細菌検査、牛乳の成分分析等を実施し評価を受けました。平成21年度、各保健所では、良好な検査精度状態であることが確認されました。	食中毒菌等の細菌検査を実施し評価を受けました。平成22年度、各保健所では、良好な検査精度状態であることが確認されました。	食中毒菌等の細菌検査、牛乳の成分分析等を実施し評価を受けました。各保健所では、概ね良好な検査精度状態であることが確認されました。	
外部精度管理調査への参加施設数(衛生環境研究所)	2施設	2施設	2施設	2施設	衛生環境研究所及び中央食肉衛生検査所の2施設が参加し、微生物検査を5項目、理化学4項目の調査に参加し、良好な結果を得ました。	衛生環境研究所及び中央食肉衛生検査所の2施設が参加し、微生物検査を5項目、理化学4項目の調査に参加し、良好な結果を得ました。	衛生環境研究所及び中央食肉衛生検査所の2施設が参加し、微生物検査を2項目、理化学8項目の調査に参加しました。一部改善が必要な事項があったため、原因の究明を及び改善措置を行っています。	